

西ティモールにおける植物利用の多面性
ーヤシ科植物の道具利用を中心に
Multifaceted Use of Plants in West Timor, Indonesia
ーA Case Study of Palms for Daily Utensilsー

中谷文美 (岡山大学)
上羽陽子 (国立民族学博物館)
金谷美和 (国際ファッション専門職大学)
NAKATANI Ayami (Okayama University)
UEBA Yoko (National Museum of Ethnology)
KANETANI Miwa (Professional Institute of International Fashion)

ティモール島を含む小スンダ列島は、植物地理学上の区分で「マレーシア熱帯」に位置し、非常に多様な植物相に恵まれている。この豊富な植物資源がどのように活用されているかを明らかにするために、植物を用いた生活用具の悉皆調査、植物の採取と生活用具の制作工程の観察・記録、植物の伐採・加工に用いる道具の使用実態調査を西ティモールの低山帯に位置する村落で実施した。

調査対象集落にある伝統的領主の屋敷 (*sonaf*) を中心に、そこで実際に使われたり、保管されたりしている生活用具を撮影し、現地語での名称、用途、素材、素材の入手先、ほかの素材で作る可能性の有無、製作者／ほかの製作者の可能性、耐用年数、購入品の場合は購入場所などを聞き取り、記録した。とくに使用頻度の多い植物については、どの部位をどんな用途に用いるか、といった詳細な聞き取りも実施した。

この結果、対象集落において生活用具に加工されていた植物の種類は 61 に上り、そのうちタケ科植物が 3 種類、ヤシ科植物が 6 種類であった。悉皆調査で記録できた生活用具 244 点について植物別の利用頻度をみると、タケから作られた生活用具が 53 点 (22%)、ヤシを素材とするものが 84 点 (35%)、その他の植物によるものが 106 点 (43%) となった。つまり、タケとヤシの利用頻度が相対的に高いことがわかる。

とくにヤシの詳細な利用方法を確認することにより、異なるヤシの異なる部位をそれぞれの特性に応じた用途に用いていること、同じ部位でも異なる加工を施すことで、多様な生活用品の製作が可能になり、それが結果として住民の生活全般を支えてきたことがわかった。またこれらの植物の加工に用いられてきたのは、単純かつ汎用性の高い道具であった。

つまり、調査地の人々は個別の植物の素材としての特性を正しく理解するばかりでなく、用途に応じた適切な選択と加工を行ってきたと理解できる。